

No. 033

## かまぼこは、学習記憶能力の改善が期待できる

**研究タイトル**；老化促進マウスを用いたかまぼこのアミロイド産生への影響の検討

**主任研究者**；東北大学大学院 農学研究科 分子酵素学 教授 内田隆史

**研究目的**；かまぼこの認知症改善効果を明らかにすること。

**研究結果**；アルツハイマー病（AD）モデルとして1.5年加齢させたアミロイド前駆タンパク質トランスジェニックマウスを用いた。ADモデルマウスにかまぼこを、週3回（5-8g/日）5週間給餌した後、モリス水迷路試験をおこない、かまぼこ食の学習記憶改善効果を調べた。下図に示したように、かまぼこ食に空間記憶能を改善する傾向がみられたが、最もよく使われている評価系であるプローブテストでは統計的に有意な結果は得られなかった。また、ADの原因となるアミロイドの産生量が低下することが予測されたが、予想に反して、かまぼこ食でアミロイドベータの産生は低下していなかった。これらの結果は、かまぼこが、アミロイドベータ産生を低下させる以外の機構で学習記憶力の改善に効果を発揮していることを示唆している。今後、マウス個体数を増加させ、プローブテストでも有意な結果を得ることと、作用機構を明らかにすることが必要であるが、かまぼこは、学習記憶能力の改善が期待できるという印象を持った。

